

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	49	学校名	恵那高等学校
------	----	-----	--------

学校教育目標 (教育方針)	質実剛健・自重自治の伝統精神を基調とし、進取闊達にして知性と情操豊かな民主国家の形成者を育成する (1) 生きる知恵をもって社会でリーダーシップを発揮する生徒を育成する (2) 自ら問を立て「探究」する生徒を育成する。 (3) 心に故郷を抱き、世界を見据える生徒を育成する。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生きる知恵をもって社会でリーダーシップを発揮する生徒 ・ 自ら問を立て「探究」する生徒 ・ 心に故郷を抱き、世界を見据える生徒 	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質の高い授業と「探究」する学びの提供 ・ 社会や自然とつながる多様な学びの場の提供 ・ 一人一人が輝き、仲間とつくる感動の場の提供 	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎学力と基本的な生活習慣を身に付けた生徒 ・ 志をもって自分を伸ばそうとする生徒 ・ 大学進学を目指す生徒 	
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の探究活動を支える授業改善（探究活動と授業の往還） ・ 生徒の主体的な意思決定を通じた積極的な生徒指導と教育相談の充実 ・ 生徒が自らの「探究活動」を具体的な進路探求につなげ、主体的な学習習慣の確立につなげることができる手立ての研究 ・ 自ら学び自ら探究する能力を身につけさせ、生きる力の育成 ・ 科学的・主体的に探究を深化させる探究者を育成する理数教育システムを構築と地域の理数教育の水準の向上 		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学習指導	指導と評価の一体化を進めることで、より探究的な学びを広げる授業改善を実施していく。 生徒の多様化に対応するための指導方法やカリキュラムについて研究し、改善に移していく。	
	進路指導	人生を生きていくために必要な「探究力」育成・「なりたい自分」・「学びたい学問」の発見のため、様々な探究活動への主体的な取り組みへの参加・振り返りを促進する。 入試を突破するための「教科力」育成のため、「主体的」な学習促進のための手立てを研究する。	
	生徒指導	生徒が安心・安全に学校生活を送れるように、いじめの未然防止や不登校の早期対応に努める。 集団的な諸活動を通じて、コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図り、自己肯定感や自己有用感を育む。	
その他	地域社会の一員として社会の課題を自分事ととらえ、自己の関心と関連付けて改善策を見出そうとする力を育成する。 全ての探究につながる内発的動機に基づく問いを見つけ、粘り強く解き明かしていく力を育成する。		

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学習指導	学習評価が、教員の授業改善と生徒の学習改善に、より効果的につながるよう取り組む。	8	施策Ⅱ-8 学校評価アンケート、生徒による授業評価
	探究的手法を生かした授業改善を行うことで、探究学習全体の深化と生徒の主体的取り組みの向上を図る。	8	施策Ⅱ-8 学校評価アンケート、生徒による授業評価
	学力や進路希望に応じた学習支援・指導の改善やカリキュラムの改善に取り組む。	8	施策Ⅱ-8 学校評価アンケート、生徒による授業評価、選択講座の開講状況
	研修主事を中心に、学校全体で相互に学び合う姿勢の醸成を図る体制をつくる。	26	施策Ⅳ-26 校内外研修実施・参加状況、事後アンケート
進路指導	様々な探究活動の振り返りを確実にキャリアパスポートに記録する指導の徹底。	13	施策Ⅱ-13 参加した記録だけでなく、振り返りの記録や学部調べの結果が残っているか。
	探究活動を通して興味関心を持った事柄について深く学べる学部学科調べの機会の提供。	13	施策Ⅱ-13
	生徒が主体的に学ぶべきときに気づけるような考査・模試の振り返りの指導。	8	施策Ⅱ-8 学習状況調査において、生徒が主体的に学習している様子が見られるか。
	スタディサプリをはじめとする多様な学習ツールの魅力的な活用の研究と、生徒への提示の研究。	9	施策Ⅱ-9
生徒指導	生徒が企画・運営するLHRを、「いじめ」をテーマにして実施する。	3	施策Ⅰ-3 実施後のアンケート結果
	教育相談は、全体支援を目的とした予防的な企画を実施し、個別支援は早期に組織対応をする。	3	施策Ⅰ-3 全体支援の効果の検証と個別支援状況の検証
	城陵祭活動の企画・運営を、集団や社会に参画し、人間関係を自主的・実践的に形成する機会にする。	1	施策Ⅰ-1 城陵祭実施後のアンケート結果
	持続可能性のある学校行事の在り方について検討する。	20	施策Ⅳ-20 令和7年度以降の学校行事の具体化
その他	地域の魅力を探究し、新たな付加価値を生み出す力と態度を育成する機会の提供。	4	施策Ⅰ-4 地域の課題を検証し、市役所への提言ができる。
	外部機関と連携した探究的な学びの一層の充実。最先端の研究や実社会への応用を学ぶ機会の確保。	20	施策Ⅳ-20 他の地域と比較した成果物の検証
	探究に不可欠なメタ思考の基盤を築く。このために情報Ⅰと統合した学校設定科目を開発する。	9	施策Ⅱ-9 年間指導計画の検証指導案、教材の完成
	問題発見能力、探究力、社会性を伸長する。このために協働的で自立した課題研究を実施する。	8	施策Ⅱ-8 内発的な研究テーマの数段階的評価とピア評価

来年度向けの改善方策等

実施日：令和7年 1月15日

<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導と評価の一体化を効果的に行うために、各教科の専門性を踏まえた取り組みを進める。 探究的手法を生かした授業改善について、各教科の研修推進担当者や探究企画部とも連携して、全職員へと広げていく。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新課程で初めて実施される共通テストを各教科で徹底的に分析し、来年度の授業や自主講座の改善を図っていく。 探究活動全体を通して決定した志望先を、後期入試まで粘り強く目指す生徒の姿を育成する。 <p>【生徒指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> Ena School Timeは来年度も継続する方針であるが、期間や時間の設定については検討していく。 持続可能な学校行事のあり方について、特に学校祭体育の部の屋内開催に向けた準備を万全にする。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通科と理数科を対象とした発表会を全校規模で行うように年間計画に配置する。またそれが可能となる年間指導計画を全学年次について立案する。 生徒の活躍や高校の取組みを効果的に広報できるようSNS（Instagram）の活用を検討し運用の準備をする。

年度末評価（自己評価）			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
総合教育センターの指導主事を招いて全体の職員研修を実施し、その後教科ごとでの研究を促した。	B	▲評価を改善につなげることが実践面において効果的とはまだいえない。	A
探究学習について2度の職員研修を実施するとともに、春と秋の授業研究週間を通じて実践の拡大を図った。	A	○探究学習を授業に取り入れる動きは、少しずつ広がられている。	
中高の学習の接続を支援するEna School Timeの実施や宿題等の再検討、カリキュラムの改定を行った。	A	○改善を一定程度前進させた。学習指導に対する評価が高くなった。	
各教科に研修係を置き、校内研修や授業研究の実施方法の改善につなげた。	B	▲教科横断的な交流を目指して実施方法の改善を試みたが、さらなる工夫が必要である。	
進路指導部会で進路ノートの活用状況を確認し、各学年での使用を推進した。	A	▲各学年の意見を吸い上げ、ノートの内容を充実させていきたい。	A
探究活動、進路に関するLHR、進路行事を関連付け、自分のキャリアを形成していく意識を持たせる指導を特に2年生において意識して行った。	A	○高校時代の活動全体を通して、多くの2年生が2年生0学期（1月）の時点で目標とすべき進路を決定できている。	
模試の前には志望校のデータを調べて目標点を設定する時間を、事後には分析の時間を確保した。	B	▲特に3年生において、模試を通して自分の課題を把握し、すべき動向を決定していく姿が見られた。進路ノートに定期テストに関する計画や振り返りのページを追加したい。	
学習のみならず、英検対策や就職試験対策、学校推薦型選抜対策として多様な使用方法を生徒に提示できた。	B	▲一年を通して、毎月7割の生徒がログインし、使用する状況を維持できた。2年生においてアクティブ率が低下する現状について、1年時の率を維持できるように働きかけを行っていきたい。	
10月に「いじめ」をテーマにして生徒が運営するLHRを実施した。	A	○担当生徒が、事前に担任・副担任と内容を検討し、準備をして当日の運営を行った。各クラスがそれぞれの方法で「いじめ」について考える時間となった。	A
学習の不安感の解消や協働的な学びの基礎を築くために、新入生を対象として、入学後2週間、週2回、1日2時間をENA SCHOOL TIMEとして実施した。	B	○生徒からは、スムーズに学校生活に慣れることができたという感想が多数であった。実施方法や時間については来年度に向けて検討していきたい。	
生徒会が中心となり、生徒が主体となって城陵祭活動に取り組んだ。	A	○テーマ発表から準備、当日の運営や発表まで、生徒が主体となって企画・運営することができた。生徒自身の満足度も高い城陵祭となった。	
熱中症対策として体育祭の室内開催を検討するために、生徒の代表者が岐阜高校の体育祭の視察とひがしみのふれあいセンターの現地見学を行った。	B	○学校行事のもつ意義、その学校行事を持続可能なものにしていくことについて考えるきっかけとなった。具体化に向けて検討を進めたい。	
生徒のグループ活動を外部からの支援を受けながら探究し斬新なアイデアを市役所に提言した。	A	▲学術分野の知識を活用し、科学的で実現可能な解決策を見出すように導けるよう改善する。	A
校外研修を通じて研究機関や企業の技術にふれて探究を進めるプログラムを開発した。	A	▲各年次の活動の積み上げと学年ごとのつながりを生徒自身が意識して取り組めるようにする。	
情報科と連携しこれまでの課題研究Ⅰと融合したカリキュラムを策定し教材を開発した。	A	▲課題研究に向かう意識を高めるため後期の指導内容を前期に行うよう改善する。	
内発的な問いに基づくテーマ設定と取り組みを促し、自己・相互評価の機会を設定した。	A	▲自己・相互評価の基準を明確化し定期的継続的な評価を実施するよう改善する。	

学校関係者評価

実施日：令和7年2月5日

<ul style="list-style-type: none"> ・本日の授業を参観して、また今年度の生徒の活躍や恵那高校の取組みについて記載されている「恵那高ニュース」を見直し、恵那高校の教育活動のすばらしさや豊かさを改めて感じた。 ・「生徒が運営するLHR」は大学や社会に出てから必要とされる自ら企画・運営する能力を育成するよい取組みである。 ・恵那高校生の姿が中学生にとってよい手本となっている。中学生と高校生の学力の差が大きくなっているように感じる。恵那高校での取り組みを見て、感動とか面白さを感じられることが学習意欲につながっていると感じた。中学校での教育活動にも生かすことができるヒントを得られた。 ・内発的な「問い」に基づいたテーマで探究することが、面白さや学習する意欲につながっている。また他者や校外の人と交流することによって新たな発見に結びつく。そのような機会、例えば企業展などに出向くなどの機会を設けてはどうか。 ・生徒が自分の探究活動の成果を発信する取組みは大変重要である。しかしまだ伝える能力はまだだのように感じた。思いや考えを伝える技術の習する機会を向けてほしい。
--